

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572710424		
法人名	有限会社 Slow and Slow		
事業所名	グループホーム悠々庵花ごよみ		
所在地	秋田県横手市大雄字西館合75		
自己評価作成日	平成28年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成28年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホーム周辺は四季折々の風景を楽しめる環境にあります。 ・「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」という運営理念に添って、利用者のペースに合わせた支援を行なうこと、 又、日々の業務の中で利用者と一緒に家事作業が行なえるよう、常に環境作りを心がけています。 ・職員の介護力アップのため、内部研修に力を入れて取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小学校の学習発表会などの行事に招かれたり、ギター演奏や腹話術、紙芝居等のボランティアの方々を招き、交流を図っている。地域の方々から山菜や野菜の提供などもある。認知症サポーター研修を実施し、地域の方々にも参加してもらうなど地域との交流が盛んである。緊急連絡網登録された地域住民3名が、年2回の総合避難訓練に参加しており、まさに向こう三軒両隣が緊急時に駆けつける体制は羨ましい。地域住民による消火器作動訓練も確認できた。地域の協力医療機関からの月1回の往診や訪問看護があり、何かあればすぐに電話連絡できる関係が構築され、利用者・家族の安心につながっている。医師による居宅療養管理指導によるアドバイスはとても心強い。全利用者個々の24時間の状況が把握できるチェック表を作成しており、いかにして簡単にしかも確実にチェックできるか、何度も試行錯誤を重ねている。利用者全員のケア目標を介護日誌(個別ケア記録)の表紙裏に挟み、スタッフがケア目標を常に意識し、ケア目標が記録に反映されるよう工夫している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」を全職員が共有し、意識しながら活動しています。	朝、夕の申し送り時や月1回のカンファレンスの時に、理念である「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」ことについて職員間で確認しており、日々の業務の中でも理念を意識した支援が行われている。13年前に設立時の思いを込めて作成した理念であり、「誰にでも分かり易い内容ではあるが、この理念の達成に向けて今だ取り組んでいる最中であり、変更は考えていない」とのこと。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行う行事では、地域のボランティアによる余興などを行なっています。又、地域の小学校行事に参加しています。	小学校の学習発表会などの行事に招かれたり、ギター演奏や腹話術、紙芝居等のボランティアの方々を招き、交流を図っている。地域の方々から山菜や野菜の提供などもある。認知症サポーター研修を実施し、地域の方にも参加してもらうなど地域との交流が盛んである。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域貢献までには至っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や助言は活動に生かすようにしていますが、運営推進会議の開催が思うようにできていない。	ホームでの利用者の生活を理解してもらうため、スライドを使って事業の報告をしている。前回の評価結果を踏まえ、定期的な開催に向けホームなりに取り組んできたが、業務の都合や委員の方々との調整が難しく、2ヶ月に一度の開催には至っていない。	運営推進会議を単独に開催するのが難しければ、委員が来訪しやすいよう、例えばホームの行事後に開催するなど、柔軟に対応して見る必要を感じます。2ヶ月に一度の定期的開催に向け更なる取り組みを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、地域包括支援相談員の受け入れを行ない、利用者の生活状況を伝えながら、相談したり助言を頂いたりしています。	毎月、地域包括支援センタースタッフに来ていただき、利用者の相談を受けたり、介護予防サポーターとして利用した折り紙の作り方をホーム利用者に提供してくれたり、手書きのメッセージを入居者個々に渡してくれる等、密接な関係にある。代表者や管理者が利用者やスタッフに言えないことも相談できる関係にあるとのこと。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、管理者、リーダーを中心に社内研修を行ない、拘束を行わないケアに取り組んでいます。	社内研修を行い、職員の身体拘束廃止に関する意識向上に努めている。安全確保の為、身体拘束を必要とするケースについては、利用者及び家族に説明し同意を得ているのはもちろんのこと、どのケースも拘束以外の代替的な介護方法を検討し、一時的な拘束の解除につながっている。前回の評価結果を踏まえ、やむを得ず拘束を実施せざるを得なかった場合の経過記録については、その後整備されていることが確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、管理者、リーダーを中心に社内研修を行ない、虐待防止の徹底に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度についての研修を受講しており、必要とするときは活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書等で家族が分かりやすい言葉で説明し、意向の一つひとつを確認しながら同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱等は設けていないが、面会時や電話等で、利用者家族に要望や意見を述べていただいています。	面会時や電話などで家族からの意見や要望等を聴くよう努めている他、利用者については、職員が直接聴取している。「ご利用者・ご家族様への利用者状況報告書」をホーム独自に整備し、使い勝手を検証しては、様式等の改善をいとわない姿勢を感じる。全スタッフが情報を共有し、少しでも意見や要望が運営に反映されるよう取り組んでいる。	ホームの運営について話し合う様々な機会を活用し、より一層意見や要望を家族から引き出す方法についてのアイデアを出し合い、微力でもまずは実施してみるよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、リーダーは、職員が困っていることや不安なことなど話しやすい環境を作り、意見を反映する体制ができています。	意見や要望を言いやすい環境づくりに努めており、日常の業務を通して、あるいは朝夕の申し送り時や毎月のカンファレンスで取り上げている。利用者個々の体調の変化に合わせ、利用者に負担をかけない介護方法を検討し、結果、浴槽に簡易手すりや浴室マットの導入につなげている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算の活用や、資格取得に必要な経費の援助、日程に合わせた勤務シフト表の検討などを行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域医療福祉連携室主催の勉強会やGH情報交換会などの外部研修に積極的に参加しています。また、毎月、管理者、リーダーを中心に内部研修を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム情報交換会に参加したり、地域ケア会議に参加したり、他事業所との連携を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学や、体験入所を通して安心感を持てるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や、事前面接を通して要望等を聴き、適切な助言ができるようにしています。又、ホームの雰囲気を感じていただけるようにしています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者から生活の知恵を学びながら、一緒に料理をしたり花や野菜の水やりなど、協力し合いながら過ごしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に「花ごよみ便り」や「状況報告書」で日頃の暮らしぶりや身体状況を伝え、状態変化が起きた場合には速やかに報告連絡をし、遠くにいる家族も安心して頂ける体制を整えています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や病院、自宅への外出など、家族の協力を得ながら行なっています。	家族の協力を得ながら、希望があれば出来る限り美容院や墓参り等の馴染みの場所へ外出できるよう配慮している。自宅の前を通る際は車のスピードを抑え、あえてゆっくり走るようにしている。家族が通院に付き添ったり、お盆帰省できるようホームなりに協力している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性を理解し、共通の話題や手作業などを通して、利用者同士が支え合えるようにしています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に相談や支援が必要であれば、継続して支援していくようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で希望、意向を把握できるように努めています。	日本舞踊の師匠だった利用者が踊りのボランティアと一緒に踊りを披露したり、器用な利用者の毛糸の人形がホームの壁に飾られたりしている。日常の会話の中で希望を聴きとる努力を惜しまず、自分から話してこない利用者については、行動を観察することで、思いをくみ取るよう取り組んでいる。当日は、おしぼりたたみや箸を配置する姿が確認できた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や家族から情報提供を頂き、これまでの暮らし方について把握するように努めています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の送りや介護記録を通して一日の暮らしの流れを把握し、カンファレンス等で話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を充分聴き、職員全員が意見を出し合いながら計画書を作成しています。	家族の意見や要望・日常の会話・朝夕の申し送り・毎月の職員間でのケアカンファレンスを基に意見を集約し、担当者が介護計画案を提案、内容を職員が確認したうえで介護計画書が作成されている。利用者全員のケア目標を介護日誌(個別ケア記録)の表紙裏に挟み、スタッフがケア目標を常に意識し、ケア目標が記録に反映されるよう工夫している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護日誌、連絡ノートを活用しながら職員間で情報を共有し、3～6ヶ月ごとに見直しを行なっています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の行事参加やボランティアとの交流を行なっています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得たうえで、協力医療機関より、月1回の往診と週1回の訪問看護があり、適切な医療を受けられる体制をとっています。	地域の協力医療機関からの月1回の往診や訪問看護があり、何かあればすぐに電話連絡できる関係が構築され、利用者・家族の安心につながっている。医師による居宅療養管理指導によるアドバイスはとても心強い。薬局についても、薬をホームまで届けてくれ、いつでも気軽に相談できる体制にある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、訪問看護センターと24時間相談が受けられる体制をとっています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携により、24時間体制で緊急時の対応ができ、入退院時の場合は速やかに情報交換ができる体制をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、本人家族の考えを聞くとともに、重度化した場合は事業所の指針を説明し、同意をいただいています。	入居時に「緊急時の対応についての事前意思確認書」に基づき本人・家族に説明したうえで、同意を得ている。利用者の心身の状況変化に応じ、「重度化時対応希望書」も整備されている。過去に看取り対応をした実績を有している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを全職員が目を通せるようにしており、定期的実践訓練を行なっています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(夜間想定含む)の火災・避難訓練を行なっています。 緊急連絡網に地域の方々も含めており、訓練にも参加いただいています。	消防署と警備会社及び緊急連絡網登録された地域住民3名が、年2回の総合避難訓練に参加している。まさに向こう三軒両隣が緊急時に駆けつける体制は羨ましい。地域住民による消火器作動訓練も確認できた。	災害時に駆けつけた地域住民の役割を明確にすることが可能な状況と思われます。非常出口での役割等、消防署に相談し、具体化するよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や個性を尊重した言葉かけ、タイミングを見ながらの声かけ、声のトーンや表現方法に配慮しています。	ホーム側の都合ではなく、利用者個々の人格にあわせた言葉かけに気をつけ、場面によっては声のトーンを低くするなど配慮している。排泄全介助の方が数名であるが、仕草一つひとつを小声で声掛けすることで、安心して介助を受けられるよう配慮している。利用者の個性に合わせ、あえて方言でやり取りするほほえましい光景もあるとのこと。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望、訴えなど傾聴し行動を理解することで利用者が自己決定しやすい環境をつくっています。又、コミュニケーションが取りにくい場合は、出来るだけ本人が望むであろう選択で、支援を行なっています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて支援を行なっています。表現の難しい方は、様子や行動から希望を察し対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のなじみの美容院への外出支援を行っています。又、2月毎、訪問理容を行ない希望のヘアスタイルに合わせおしゃれができるようにしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に盛付け、片づけを行っています。又、季節の物や畑で採れた野菜など、職員と利用者で楽しみながら調理しています。	調理の下ごしらえ、食事の準備や後片付け、盛り付け等、できる限り利用者と一緒に行っている。また、季節感を感じてもらおう、山菜や野菜を献立に取り入れている。敬老の日やクリスマス等にはホームなりに工夫した行事食を提供しているとのこと。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量や体重増減について記録し、個々の状況を把握できるようにしています。体調の変化について、訪問看護から主治医に連携し相談しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後行なっています。利用者の口腔状態によっては、協力歯科医院に相談し訪問治療、指導を受けています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援しています。	全利用者個々の24時間の状況が把握できるチェック表を作成しており、個別の排泄パターンに基づき、バットの活用やトイレ誘導など、排泄の自立に向けた支援に心掛けている。いかにして簡単にしかも確実にチェックできるか、何度も試行錯誤を重ねた結果、A4サイズ横1枚の現チェック票を採用しており、今後必要があれば改正するとの意向が確認できた。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックや水分補給を促しています。自然排便が困難な方は必要に応じて下剤の処方をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は、バイタルチェックを行ない健康状態を確認しています。 曜日や時間帯に関わらず入浴できるようにしています。身体状態に合わせバスボードを利用し安全に入浴できるようにしています。	バイタルチェックを基に、健康状態を毎回確認し、個々のその日の体調に合わせて週2～3回の入浴を実施している。安全に入浴できるよう浴槽の簡易手すりやバスボードなどの福祉用具を新たに採用している。脱衣室は暖房が完備され、更に足元ヒーターも設置されている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、体操などを取り入れ適度な運動を行なっています。 睡眠障害のため夜間眠れない場合は、眠剤の処方をお願いしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している個々の薬の内容は、個人ファイルに綴じ全職員が目を通せるようにしています。 飲み忘れや誤飲がないよう十分に注意を払うようにしています。又、薬の変更や臨時薬については、申し送りや連絡ノートで確実に伝達するようにしています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事や作業、レクリエーションなどの場で個々の役割、楽しみごとを作るようにしています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や身体状態を見ながら散歩や買い物支援を行なっています。 家族の協力を得ながら、定期的に外出している方もいます。	散歩や買物のほか、地域行事のあやめ祭り、菊まつり、雄物川公園等に出かけている。また、ホーム駐車場にテーブルを出し、お茶を楽しめる機会を提供している。その他、ドライブや家族に協力をもらい自宅に帰宅する機会をつくっている。町内を一回りするのがいつもの散歩コースとなっている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、個人の力に応じた支援をしています。お金を使うことについては、家族と相談しながら、買い物を楽しんでもらえるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らの電話については、家族の了解を得たうえで行なっています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やなじみの方からの電話など職員が見守りしながら対応しています。家族から絵葉書など届いた際は職員が読み聞かせています。	2棟あり、それぞれ違った造りになっているが、建物内は自然の光を取り入れ明るく快適な生活環境が整備されている。また、季節感を感じることができる飾り物があつたり、近所の方から提供していただいた花々が心を和ませている。笑顔がいつぱいの行事の写真がところ狭しとばかりに掲示されていた。当日は早秋を思わせる玄関のすずきが迎えてくれた。2号棟のリビングの吹き抜けの天井は、実に開放的で圧倒される。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、気の合う利用者同士で会話ができたり、リビングに本や雑誌を置いて読書できるようにしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団タンス等の持ち込みや、家族の写真、好きな歌手の写真などを飾り、居心地良く過ごせる環境を作るようにしています。	家庭から使い慣れた家具等が持ち込まれ、転倒などの事故が発生しないよう整理・整頓されている。利便性を考え、後付けで全居室に棚を設置しており、室内灯のスイッチも引き紐は利用者個々の身長に合わせて、長さ調整されている。停電時に押せば簡単に点灯する非常灯も採用されている。笑顔の家族写真も飾られ、安心して落ち着いた生活が送れるよう配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は、整理整頓を心がけ安全の確保に努めています。利用者個々の「出来ること」を見極めながら家事等を行なっていただくようにしています。		